



学園だより

令和6年11月29日
(第10号)
校長 若松 征一

重点教育目標「仲間と共に 学びを創る 子ども」が育つ学園の創造

スキ読！～読書の力を未来へつなぐために～

本校では、子どもたちの読書習慣を育むため、「スキ読」という全校での読書活動に取り組んでいます。「スキ読」は、「スキな本を、スキな場所で、スキ間時間に、スキなだけ読む」という自由なスタイルの読書を楽しむ活動です。この取り組みを通して、子どもたちが気軽に本を手に取り、読書を身近に感じることを目指しています。

学校では、読書コーナーを利便性の高い場所に設けたり、図書館との連携を深めたりしながら、読書活動の環境整備を進めています。また、児童生徒会の発案による読書イベントや、北村司書さん、リーディングクラブ「タンポポ」の皆さんの協力を得て、読書を楽しむ体験に変える工夫を重ねています。

読書活動を進める背景には、湧別小学校時代に見えてきた課題があります。子どもたちが本を読む時間が減少していることに加え、家庭での読書習慣が十分に根付いていないことが明らかになりました。このような状況を受けて、教職員の間で「文章を読み取り、情報を正しく選ぶ力（読解記述力）は、教科に関わらず重要であり、全員で育むべき力だ」という共通認識が生まれました。



読解記述力は、日常生活や将来のあらゆる場面で役立つ力です。高校や大学の受験においては、文章を正確に理解し、自分の意見をまとめる力が求められる場面が増えています。社会に出てからも、契約書やルールを理解したり、ネットやニュースの情報を正しく判断したりするために必要不可欠です。しかし現代では、読書の習慣が薄れつつある現状も見逃せません。2023年に文化庁が行った調査によれば、「1か月に本を1冊も読まない」と回答した人は全体の6割を超えています。

本校の子どもたちも、全国平均と比べて家庭での読書時間が短く、ゲームや動画視聴に多くの時間を費やしている傾向があります。その中で、読書への第一歩として大切にしているのが、「まず本を手にとってみる」という小さなアクションです。「本でも読んでみるか」という気持ちから始まり、1日10分、1ページでも読んでみる。この積み重ねが、やがて読書の習慣へとつながります。

ご家庭でも、お子さまが「スキ読」の楽しさを実感できるよう、ぜひ温かく見守りながらサポートしていただければ幸いです。今後とも、本校の取り組みへのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

栄光のゴールドラッシュ

令和6年11月27日現在、ゆうべつ学園の児童生徒たちがさまざまなコンクールで素晴らしい成果を収めました。以下にその受賞者をご紹介します。

「税に関する作文」コンクール

- ・紋別地方法人会会長賞 9年生 渋谷朋樹さん「税と私たち」
- ・紋別税務署長賞 9年生 鈴木二子さん「税金の必要性」

「税の絵手紙コンクール」

- ・努力賞 6年生 佐々木優多さん

「MOA 美術館作品展」

- ・MOA 美術館奨励賞 5年生 森谷晴琉さん「大海原」
- ・湧別町長賞 2年生 奥田麻梨香さん「生きる」
- ・北海道新聞社賞 4年生 土屋宥翔さん「大地」
- ・金賞 2年生 畠山志友さん「本ばこ」

「防火防災コンクール」

- ・佳作 8年生 畠山結心さん 8年生 後藤恋那さん

受賞された皆さん、おめでとうございます。今後もさらなる活躍を期待しています！

新たな一歩 後期生徒会が始動！

11月8日（金）、後期生徒総会が行われました。この総会では、前期生徒会の活動報告が行われ、後期生徒会への引き継ぎが行われました。前期生徒会が取り組んだ活動計画の成果や課題が共有される中、次期生徒会はそれらを引き継ぎ、さらなる学校の発展を目指していく決意を表明しました。

総会は終始和やかな雰囲気
で進み、生徒
全員が学校運
営に主体的に



関わる意義を再確認する場となりました。新たにバトンを受け取った後期生徒会の活躍が期待されます。

築山完成！

11月7日（木）、グラウンド横に初心者用スキー練習に最適な「築山」が完成しました。この斜面は、高さ3メートル、長さ20メートルの設計で、スキー練習やそり遊びに最適です。冬季期間中、低学年の児童が楽しく安全に雪遊びを楽しむことができるよう整備されました。これからの季節、笑顔あふれる活動の場となることを期待しています。



12月の行事予定はこちらを
読み取ってください。

